高校阿倍野新聞

発行所
大阪市阿倍野区阪南町中一丁目30番34号
大阪府立阿倍野高校
新聞部
編集責任者　石井典子　土上典子

クラスマッチ

クラス・マッチが五月十日に、青空の下で開かれた。種目は、バスケットボール、バレーボール、ハンドボール、ソフトボールサッカーの五種目で、一日中試合に汗を流した。男子の試合には女子が、女子の試合には男子が、大声を張り上げて応援している姿が、あちこちで見られ、「クラスの親睦」が深められたことが、よく表われていた。このクラス・マッチは、住高戦のかわりに、昨年から始められたのだが、「クラスの親睦」を深めるということを目的とするなら、クラス・マッチは成功をおさめたと言えるだろう。また今年から、ブービー賞が加えられみんなの楽しみが一つ増したようだ。

去る五月十日、晴天の下で第二回春季クラス・マッチが開かれた。この日のために、ゴールデン・ウィークも返上して、練習していたクラスも三、四あり、昨年以上に白熱した試合が目立った。今回の競技種目は、バスケットボール、バレーボール、ハンドボール、サッカー、ソフトボールの五種目でバスケット（男子）、バレー（女子）は三学年共通であった。

バレーボールでは、一年生の活躍が目立ち、あるクラスの試合では「回転レシーブ」も飛び出した。

バスケットは、見ていて非常に楽しいと、女子に好評であった。これで人気の上がった男性もいるのでは……。

今回から、学年総合に「ブービー賞」が加えられた。賞品が与えられたのは、この賞だけで、優勝した人たちより、この賞の人たちの方がかえって喜こんでいたようであった。中身は鉛筆で、一人あたり一本だったそうである。

最後に、今回全般の特徴として敗者復活のチームが決勝戦に進出し、優勝までもさらっていったところもあり、試合の運、不運を思わせていた。また、反省として、クラスマッチの大きな目的の一つである「クラスの親睦」においては成功したようだが、クラブ員の起用には、生徒の間から、文句が聞かれた。バレーの場合だと、アタックはしなくても、中衛センターに部員がいると、どんなボールでもとってしまうとか……。ともかく、もう一度考えて、今後の参考にしてもらいたい。

結果は次の通りです。

〔バスケット〕
三年優勝　一組
二位　七組
三位　三・五組
二年優勝　五組
一位　三組
三位　四・七組
一年優勝　七組
二位　八組
三位　三・六組

〔バレーボール〕
三年優勝　二組
二位　三組
三位　五・七組
二年優勝　一組
二位　四組
三位　三・六組
一年優勝　八組
二位　二組
三位　五・七組

〔三年男子ハンドボール〕
優勝　六組
二位　五組
三位　一・七組

〔二年男子ソフトボール〕
優勝　五組
二位　一組
三位　六・七組

〔一年男子サッカー〕
優勝　三組
二位　八組
三位　二・五組

〔学年総合〕
三年優勝　一組
二年優勝　五組
一年優勝　八組

〔ブービー賞〕
一年　五組
二年　七組
三年　八組

▼自治会より▲

学年総合の結果において、新聞部の不手際のため、一位・三位を掲載できなかったことをお詫びします。

シュート!!

詩

乞食

人も　太陽も
すべてのものが
平気で　平気で背を向ける
ぼうぼうと
あの　白い髭をのばし
あの　白い髪をのばし
破れ　肌の見える服を
靴のない　弱弱とした足で
人間の　人並の生活を
本当に　知らないかのように
ただ　神様から授かった
彼自身の　長い長い道を
ひとり　静かに歩む

部説

特性を見い出そう

最近、一般社会において以前は男性だけしか行なわなかった数多くの職業に、女性が次第に進出してきている。昔は、男尊女卑といわれていたが、現代では男性も女性も平等である。このことは憲法で定められている。しかし、戦前までの考え方を持った人々がこの世に多くいた数年前まではいくら憲法に定められてあるといっても不平等であった。しかし、最近このことは悪いことだということに気付き、また、女性にも「やる気」が出てきたために昔では考えられないような職業にも女性が進出してきている。

昔、男性は学校を卒業したならばなんらかの職業に従事し、女性は学校を卒業し花嫁修業を行なう。どちらもある程度の年齢になれば結婚、その後男性は職業を続けるが女性は家事をするのが普通であった。このような過程を経て死に至るまでの間に、男性ならばその人の特性を見い出し発展させることは可能である。しかし、女性は特性すら見い出せないかも知れない。それでは女性に生まれて来た人々がかわいそうである。それで近頃では女性も男性と同じ様な職業についたり共働きという形で長く女性も働いてはいる。しかし、このようなことはまだ一般にまで普及はしていない。普及するまでには数多くの問題はある。特に、昔からの日本に残っている慣習がうるさいのではないだろうか。

高校生活という人生の非常に大きな別れ目に立っている我々は、今、これからのことを真剣になって考えないと、一度しかないこの人生が、ほんとうに無意味なもので終ってしまうのではないだろうか。高校生活の中にも数多くのことが昔の考え方によってまちがっているものもある。一般社会に出て行ったときのことをも考えないといけないがまず一人一人のまわりのことから考えていこう。先生方の言われることがらの中にも、色々の規則の中にもそのことはひそんでいる。しかし、いくらその考えがなくなっても自分の道がなければどうにもならない。当人にまったく適しない道を行っても素晴しい人生は送れない。当人にぴったり適した道でないと、せっかくの人生がもったいない。だから、早く一人一人に適した道を見い出し、神様から授かった素晴しい人生を素晴しく送ろう。

―スポット―

校則にない拘束

今号は、「規則と私達」について考えるために、生徒手帳にのっている「生徒心得」の内容についてみてみたいと思う。

一番最初は「服装」

男女生徒に分けて制服規定について述べてある。ここで男生徒の学生服の下に着る物の事だが、特に記されていない。夏の衣がえが近づいてくると、暑いため、よく学生服を脱ぐが、授業中にしばしば着ている物が華美だと注意される。確かにI「服装」のところで華美なものは避けるように書いてあるが、シャツが華美であるかどうかの判断は人の主観によって違いあいまいであると言える。

Ⅱ授業時間

二、授業中は静粛にしてかつ活気に満ち、教えられたことはその時間のうちに理解して覚えてしまう程の意気込みで授業を受けよう。

実際の授業の様子はどうか。なぜ眠い授業が出てくるのか。

Ⅲ授業時間外

五、常に校舎内外の清潔、整理、整頓に留意し、日々の掃除当番が清掃することは勿論その他全員で教室内外の美化に心がけよう。

自分が、日常使う所だから清潔にしようという気持は、誰もが持つべきものなのに、どういうわけか、掃除をさぼる人が多い。例え掃除当番でなくても、自分の足元にゴミが落ちていたら片付ける程の神経をもちたいものだ。廊下などで落ちているゴミをふんづけて歩く姿はよい感じはしない。

Ⅳその他注意すべきこと

六、盗難、紛失または拾得の際は ただちに学級担任および生徒課の先生に届けること。

職員室の前に、拾得物を入れた戸だながある。その中には、メガネがある、万年筆がある、時計がある。これらの持ち主は、どうしたのか。盗まれたと思ってあきらめたのか。それともなくしたことさえ気が付かないのか。最近（ずっと前でもいい）所持品をなくした人は、ぜひ、戸だなをのぞいてみるべきだ。

以上、生徒心得のごく一部をみてきた。生徒心得の中には最小限守るべき問題もある。また、疑問を感じる点もあるだろう。規則はそのままうのみにするものではない。また、本来反撥するものでもないはずだ。

また、生徒心得以外の規制問題として、頭髪規制問題がある。頭髪の「長い、短い」は人の主観によってきまる。「学生らしい、高校生らしい」髪型ときいてもイメージの浮かぶ人もいれば、全く浮かばぬ人もいるだろう。一人一人がバラバラな尺度で髪型なり、服装を見るのにそれをどうやって規制できようか。

又一つの髪型を見て、不潔だと判断する時、「実際にフケが浮いているとか衛生上不潔である」という外に、案外「見た感じ」で不潔だという人がいる。これも、古い固定観念、あるいはその髪型がいわゆる流行型であった場合は流行というイメージからくる先天的な嫌悪から作用している場合が多い。こういうケースも一度考えてみよう。

自治会PR

自治会はいったい誰のものなんだろうか。今われわれは考えなければならない。

ともかく昭和四十六年度執行部にしても任期は六ケ月なのにたった二ケ月たらずしか活動をしていない。いやできないのだ。その間、もちろん予算は出ず、ヒーコラいっていたクラブも多かったこと思う。しかし、それはある意味ではハネッカエリではないだろうか。つまり、われわれが自治会に関心をもち、そして立候補するべきであるのだ。ではなぜ立候補者が出ないのか。その理由としては、今の自治会に信頼がないということはっきりいえば生徒の心の中には「自治会は何もできやしないんだ」という固定観念のようなものが焼きついて離れないのだと思う。本当に自治会は無能力でたよりないんだろうか。それは、ただわれわれがその実体を知ろうとしないからではないか。また、知りたくても自治会とHRとをつなぐパイプもない。しかし、それでは、あまりに第三者的で無責任ではないだろうか。現在の自治会を自ら知り、実体を把握し、今われわれは何をすべきかを考えなければならない。

自治会とは、読んで字のごとく自ら治める会。自らとはむろん我々阿倍高生のこと。自治会は、我々のものなのだという考えを念頭においてこんどの自治会選挙に臨んで欲しい。われわれのためなのだから……。

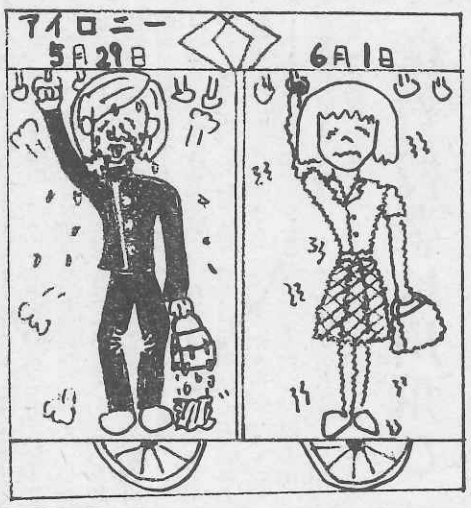
自治会はわれわれのものという考えを頭において、こんどの自治会選挙に臨んで欲しい。われわれのためなのだから……。

新聞部から

新学期に入って二カ月、新聞部は新一年、二年を中心に活動しています。今まで以上の新聞を作るため次のようなことを考えています。「学園内の事実の正確な報道問題点、不合理な点の指摘と改善等よりよい民主的な学園を創るため活動していきたい」ということを主旨とし、具体的には次の二つのこと。

。年六回の定期的な活字新聞以外にガリ版新聞の発行をします。これは、活字の新聞では各行事とのズレがあり、発行までに相当の時間を要するので、ニュース性に不足するということ。これを補うため、流動性のあるガリ版新聞の登場となったわけです。

。阿倍高の広報機関であり、生徒皆さんの意見の自由な発表の場であります。学校、生徒会、クラブまた新聞部への不満等、何でもかまいません。投書をお願いしたいのです。新聞部もただの一つのクラブですが、阿倍高の中で息づいていきたいと思うのです。



針の穴

中間テストも終ってホッと一息ついているところと思います。新しく入った一年生の皆さん、どうでしたか。針子はいつもとおんなじ。ガックリ……。▼そろそろ暑くなってきましたね。昨日から衣がえ。暑いのはイヤですね。だって勉強ができないもの。▼ところで今年は大学の合格率が大変良かったそうですネ。針子もガンバラナクッチャ。▼でも大学にはいるのには試験があるんですってネ。考えちゃうな?!▼さて皆さん、もう新しいクラスに慣れましたか?四月の遠足、五月のクラスマッチと学校行事が多かったけれど親睦ははかれましたかナ。▼しかし、その心配はないようですネ。自習時間を見てみればわかることですナントうるさいこと!そろそろバケの皮がはがれてきたようで。▼クラスマッチといえば、皆さんはどうでしたかナ?一回戦で勝ったチームに決勝戦で敗れて優勝をのがしたチームもありましたネ。針子も一生懸命、応援しましたヨ。あれでみんなとも話しあえるようになったし。でも本当は一日つぶれたことの方が針子にとってはよかったみたい。▼それから五月の中旬には、スポーツテストがありましたネ。もうそろそろ老化現象が始まっているのでは。『若さだヨ、○○チャン』とは、いきませんナ!▼そしてもうすぐ自治会選挙ですネ。今度の選挙も再選挙、再々選挙なんてならなければいいんですけどネ。▼でも自治会のことを非難する前にもう一度今の自分を振りかえってみて下さい。あくまでもわれわれが主体ですヨ。それなのに都合の悪い時だけ第三者に〝ヘンシン〟するのはチト卑法ですゾ!▼ところでつい半月ほど前に南のあるデパートがたばこの火の不始末で火事となり、多くの死傷者が出ましたネ。まだ頭の中に焼きついていることと思います。▼そのことでまた、当局の防火対策が批判されましたネ。いつもいつもこれですからネ。皆さんも『後悔先に立たず』火事だけでなく勉強も同じ。▼さぁもうすぐ学期末テスト。がんばろう。なんてチョット早いかナ。

針子

大学別合格者人数 現役大いに伸びる

☆……今年の大学入試は、授業料値上げに反対する動きが心配されたが、……☆
☆……ほとんど妨害もなく終了した。今年の特徴として、現役の進出が目……☆
☆……立っていることがあげられる。これからの傾向として、ますます現……☆
☆……役に有利になってくると思われる。……☆

注　（　）…現役人数
　　カッコ上の数は合計人数

▽国・公立△
北海道大　一（〇）
新潟大　一（一）
三重大　一（〇）
京都大　一（一）
大阪大　二（一）
奈良女子大　一（一）
広島大　一（〇）
高知大　二（〇）
京都工繊大　一（〇）
京都教育大　三（三）
大阪教育大　一一（一）
奈良教育大　二（一）
和歌山大　三（一）
大阪外国語大　三（〇）
島根大　一（一）
海上保安大　一（一）
高崎経済大　一（一）
都留文科大　一（〇）
岐阜薬科大　一（一）
大阪市立大　六（三）
大阪女子大　一（一）
大阪府立大　八（八）
神戸商科大　二（一）
▽私立△
同志社大　二四（六）
立命館大　四〇（一五）
関西大　九〇（四七）
関西学院大　五三（三六）
甲南大　一三（一一）
京都女子大　七（七）
同志社女子大　五（五）
武庫川女子大　七（七）
神戸女学院大　一（一）
大阪工業大　一九（一三）
大阪薬科大　六（五）
京都薬科大　二（一）
大阪経済大　六（六）
甲南女子大　一七（一〇）
近畿大　九（九）
天理大　三五（三三）
桃山学院大　五（三）
帝塚山学院大　三（三）
大谷女子大　七（七）
大阪松蔭女子大　五（五）
神戸学院大　四（四）
大阪電通大　一（一）
大阪芸術大　二（一）
追手門学院大　三（三）
京都外国語大　二（一）
早稲田大　二（二）
慶応義塾大　一（一）
法政大　一（〇）
日本大　三（〇）
明治学院大　四（三）
東京農業大　一（〇）
日本女子大　一（一）
創価大　一（一）
多摩美術大　二（一）
愛知学院大　二（一）
名古屋保健衛生大　二（一）
中部工業大　一（一）
川崎医科大　一（一）
関西外国語大　一（〇）
大阪外院大　一（一）
大阪経済法科大　一（一）
大谷大　一（一）
奈良大　一（一）
花園大　一（〇）
駒沢大　二（〇）
独協大　一（一）
共立女子大　一（一）
昭和女子大　一（一）
専修大　一（一）
千葉工業大　一（〇）
東海大　一（一）
名城大　二（〇）
南山大　一（一）
九州産業大　一（〇）
南九州大　一（〇）
▽短大△
―国・公立―
和歌山大経済短大部　一（一）
大阪大医療技術短大　一（一）
京都府大女子短大部　四（四）
大阪社会事業短大　七（六）
奈良県立短大　一（一）
―私立―
大谷女子短大　九（九）
帝塚山学院短大　一一（一一）
プール学院短大　九（九）
武庫川女子短大　四（四）
常盤会短大　四（四）
京都女子大短大部　七（七）
大阪女子学園短大　二（一）
関西外語短大　六（六）
大阪キリスト教短大　二（一）
大阪女学院短大　三（三）
神戸山手女子短大　一（〇）
松蔭女子短大　一（一）
大阪音楽大短大　一（一）
被昇天女子短大　一（一）
成安女子短大　一（一）
嵯峨美術短大　一（一）
東洋短大　一（一）

〔進路指導部より〕

現役の進出著しい
―後に続くを信ず―

本年度の進路状況を顧みて、およそ次のような傾向を指摘することが出来る。

①進学希望生徒が増加し、就職者は家事についた者を含めて二十四名（七％以下）になった。

②現役の進出が著しいこと。たとえば国公立合格者数では四十五年度、現役二十三名、浪人三十二名。四十六年度は現役十九名、浪人三十八名であるのに対し、四十七年度は現役三十八名、浪人十八名となり、私立四年制大学の総合格者数では、四十五年度、現役一五六名、浪人一四四名。四十六年度現役一七七名、浪人一七七名に対し、四十七年度は現役二六七名、浪人一五六名と大巾に合格数が増加した。

③大学の合格例では、関西学院大と関西大の合格数が大巾に増加したこと。現浪合わして関学は四十五年度二十九名、四十六年度三十八名、四十七年度五十三名。関大では同様に、五十四名、七十八名、九十名となったこと。それに加えて、何年かぶりに京大、阪大の現役合格者が出たことが挙げられる。

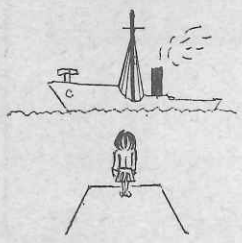
以上の傾向から次のように言えるのではないか。

進学希望者が圧倒的に多い現状では、一、二年はノンビリというムードを棄て、自から計画して学習に取り組む必要があること。充実したクラブ活動と下校時間を守ることで日々の学習を強化することが第一歩であろう。第二に「一浪は人並」という常識を棄てることだ。入試情勢の緩和と本年卒業生の状況は、後輩にこの常識が通用しなくなったことを示している。第三に国公立大の合格者が必ずしも本校上位合格者でないことだ。こつこつ努力した人達にその報いがあるのは当然だ。要するに、何事かに集中し、それに自信を高め広く他にも及ぼして力をこつこつ蓄積したい。

100円でいける大阪

大阪港（天保山公園）

地下鉄の天王寺から御堂筋線で本町に出るかまたは、谷町線の谷町四丁目で中央線に乗りかえ大阪港で降り、そこから歩いて十分程で着きます。（但し天王寺より六十円）一見なにもないような平凡な公園に見えますが、じっと耳をすましてみますと、ボーッという汽笛の音が聞こえ、不思議と心が落ちつき、何か心配ごとがあるような時でも一瞬そのことを忘れられるような安心感がもてます。また公園の芝生には、白つめ草などの花や緑がいっぱいです。幸せを求める人、四つ葉のクローバーを捜してみませんか。船の好きな人公園のベンチに腰かけて海の上に浮かぶいろいろな型の船をみつめてみませんか。それにこれから夏にかけては、すぐ・ぱにある天保山シルバープールで思いっきり遊べます。すべり台などもあり楽しくすごせます。どうですか、あなたも一度友達といってみませんか。そして一日中あばれまわってみましょう、スカッとしますよ。



新任紹介

本年度の教員異動で来られた三人の先生を紹介します。
①名前　②生年月日　③家族数　④出身大学（学部）　⑤趣味　⑥性格　⑦アダ名　⑧担当科目　⑨出身地　⑩阿倍野高校の第一印象　⑪高校時代、何になりたかったか（理由も）　⑫何故教師になったか　⑬高校時代の所属クラブ

勝田先生

① 勝田洋一郎
② 昭和七年五月十一日
③ 二人
④ 和歌山大学
⑤ 独り歩きかナ（avec NIKKOR）Seineの河岸の独り歩き――去年（こぞ）の雪、今何処〃
⑥ 自己分析不足でして、???ただこれだけは言える――このような自己露呈は好きじゃない
⑦ 今までは「カッちゃん」で通っていたよう……
⑧ 国語
⑨ 大阪府――これでも浪速ッ子
⑩ tranquillite（静けさ）若しくは「閑」
⑪ ジャーナリスト、おやじがそうだったから
⑫ おふくろさんのそばにいたかったからだろう。だから、今は逆にフラッと家から消えたくなる。家ってものはそんなもの。
⑬ 文芸部。クレヴァーなジョルジュ・サンドがいたからか、ポエジーの何たるかもわからず仲間入り。

① 河浦　一男
② 大正十五年四月四日
③ 家族、妻・長女（小学五年）
④ 大阪理工大　数学科
⑤ エンジン工学、絵画鑑賞
⑥ 分裂性気質（クレッチマーの分類によれば多分）
⑦ fire ball（第五回生諸君による。）
⑧ 数学
⑨ 大阪
⑩ 社会の混迷に左右されることなく、落ち着いた勉学を続けているのに感心しました。
⑪ 小学校の低学年の頃から、外科医になるつもりでした。誰にも煩らわされず、自分の研究ができることに魅力を感じたのが中学一年の夏休み頃でした。
⑫ 中学の頃、太平洋戦争、自身の進路希望も思うにまかせず、軍人の途を進み、戦後、恩師（担任）の強い奨めがあって教師になりました。
⑬ 弓道部

河浦先生

① 崎田　育代
② 昭和二十三年七月二十五日（サバはよんでいません）
③ 父、母、私、妹三人
④ 関西学院大学文学部史学科
⑤ 読書etc
⑥ ????（皆さんはどう思われます？）
⑦ ？（つけようのないほど〇〇〇〇）
⑧ 世界史
⑨ 大阪
⑩ 旧制女学校の伝統の良さ
⑪ 内緒（社会に奉仕したかったので）
⑫ 右記の理由と、女性の働く場として適当と考えるので
⑬ 新聞部

崎田先生

エッセイ

（一）

私の本棚には、一角だけ特別に美しく整頓された所がある。そこには、北杜夫氏のあの逞しくも繊細な一種独特の世界が、ぎっしりと詰っているのである。思えば、私が北杜夫氏の熱狂的なファンになって、早五年になる。氏の数ある著作の中で一番私を魅了したのは、やはり何と言っても、「どくとるマンボウ青春記」であった。旧制松本高校における凄まじい生活に、私には当然経験することのできないすばらしさを感じた。荒縄を帯代りにしてムシロをかぶって夜を明かす数学教師、恋愛詩を書けば五十九点と言う物理のテスト、「問題をながめてピクリンサン、腋の下にはアセチレン…どうかスコンク、クレゾール」で収めた化学のアッパレ答案…。そんなユーモア一色の中にも、青春の寂しさと言うものは隠しきれずに頭をのぞかせていた。ファイア・ストームの後、彼らは声をあげて泣いたと言う。又、ある時は、日本アルプスに向って「バッキャロー」と叫んだと言う。自分をこんなにまで正直に出し尽くせた、氏の青春が、私はとても羨ましい。孤独と友情の美しい調和を、身を以って体験した氏の心のふるさとを、私は訪れてみたい。鉛筆をもつ手を止めて目を閉じると、真赤な夕日を背景に、黒いマントを飜し堤防の上を歩いて行く氏の姿が、はっきりと現われてくる。そして溜息が洩れ、不安に襲れ、閉じた目が熱くなってくる。しかし、それと同時に、かけがえのない青春に生きている自分が、今蘇るような気がする。この本を読んだ二年前とは、全く違った自覚が…。

五月十四日

（二）

人間なんて、果敢ない
人生なんて、短い
言いふるされた言葉だけど
改めてうなずきたくなる
自分に正直に生きたい
自分の思うとおりに生きたい
判り切ったことだけど
何度もそう思う
愚かなことでしょうか
不可能なことでしょうか
あまりにも社会の渦は大きすぎます
でも社会から、ひとり離れて
私は生きていけない
要求することは知っています
でも実行することは知りません
頼ることは知っています
でも犠牲になることは知りません
ちっとも人間らしく成長しない
で
細胞だけが黙々と分裂を続けて
います
弱いんでしょうか
私は…

三月三十日

三年　藤林智子

新設校訪問

近鉄南大阪線のぶどうで有名な駒ケ谷駅から約十五分のところに府立羽曳野高校がある。まわりは一面ぶどう畑、公害もどこえやらと言った感じである。校舎は一部建設中だが、九月初めには体育館もプールも出来るそうだ。

この羽曳野高校の校章は、高校の〝高〟をはさんで左右に三枚の羽根がデザインされている。そしてまた、これは〝H〟をも形どっている。この〝H〟は羽曳野の〝H〟harmony の〝H〟high-school を表わしているそうだ。三枚の羽根は羽曳野高校の三本柱を意味している。

三本柱とは、
・調和と創造
・自主自律
・粘り強い気力、体力

体育授業は川飛び

羽曳野高校

校舎は無論新しくて、校舎内はスリッパ履き、各クラスには換気扇が付いている。地学や生物等、特別教室はそれぞれ三教室もあるが中身の設備（道具）はまだ十分でないようだ。体育の授業ではそのような点をカバーするため、地の利を生かした授業が盛んなようである。つまり、学校周辺のマラソン、すぐそばにある石川の川飛び、ロッククライミングならぬ崖登り等都心から遠く離れた田園地帯だけに、阿倍高と違って車の心配をすることもいらずに、このような校外授業が出来るそうである。マラソンでは「クロスカントリー」「住宅コース」「ぶどう園コース」「宮さんコース」等色々とコースがあって、各三～五キロ走るそうだ。川飛びは、実用的な競技で、飛べなかったら川の中へ「ボチャン」というわけである。その川飛びのために、長さ三〇〇の竹の樺も用意されているそうだ。

自治会は、学校設立一カ月後の五月に出来たそうだ。「体育の授業が出来ない」「クラブ活動が出来ない」という声が出、その解決のため自治会の早期設立（他の新設高と比べて）となったわけである。そのような理由で、自治会への生徒の関心は他校より深いが、自治会役員への立候補者は回を重ねるごとに減っているそうだ。

生徒の間では制服の自由化が今一番の関心事で議論も盛んだそうである。去年も大分制服自由化の声があったが、一学年しかないということで見送った。現在自由化運動のため私服を着てくる人もいる。頭髪の方は自由ということであった。

始業時間は夏は八時三十分、冬は八時五十分、自転車通学も許可されている。通学機関として近鉄線とバスがあるが、三十分に一本弱の割なので、一本遅れたら遅刻、帰りも時間を見はからって帰らなければならないそうだ。

新設高はいろんな点で不十分であり、不便だが、裏を返せば生徒自身でこれからの学校を創るという意欲がある。慣習に押し流されがちになる阿倍高にはない魅力を感じた。

編輯後記

――憂鬱からの脱出――

六月という月は、梅雨の月であり、我々学生の中には、新学期が始まって三ケ月目に入ったので、早くも息切れしてくる人もあろう。しかしここでふんばるか、このまま過ですかでは、後々の生活（夏休み）にも影響する。ここらで何か目標をきめてそれに向かって突進するなど今までにない努力を払わなければ六月の憂鬱を脱出することはできないだろう。

今回の新聞は二年生五人に新一年生の三人を加えた合計八人で作りました。

こちらの不手際で、取りかかるのが相当遅れてしまい、発行二週間前には連日六時までやり、ようやく発行までにこぎつけたわけです。ですから不十分な点も多いと思います。

〈おわび〉

今号は、五月十八日に出稿したため、アイロニーの内容が現在の状況にそぐわないものになってしまったことをおわびします。